

歳時記のある暮らし

二〇二六年

《四月》

桜の蕾がふくらみ芽木らかな春風が頬をなでる季節となりました。
皆様、健やかに過ごしてでしょうか。

いつも『神秘の健康力』をご愛用いただき誠にありがとうございます。

四月は、万物が清らかに生き生きと輝く月です。清少納言が『枕草子』の冒頭で「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、少し明かりて、此糸だちたる雲の細くたなびきたると記したように、春の夜明けに空の色が刻々と変わっていくさまを、これほど繊細に言い表した文章は、千年の時を経て私たちの心を捉えて離しません。

五日からは二十四節気の「清明(せいめい)」。清浄明潔という言葉が略したもので、花が咲き、鳥が歌い、空気が澄み渡る、まさに天地に清新な気が満ちる一年で最も心地よい季節です。七十二候では四日から「玄鳥至(つばめきたる)」。南の国から海を越え今年も燕が帰ってきます。泥をくわえて巣作りに励むその姿は、日本の曲辰村風景に欠かせない、希望の象徴でもありました。かつて軒先に燕が巣を作ると「その家は敏系栄すら」と喜んで記憶が、皆様胸にも懐かしく蘇るのではないのでしょうか。一方で、冬を日本で過ごした雁は北へと去っていきます。これを「鴻雁北(こうがんきたへかえる)」と呼びます。去りゆくものと来たるもの、自然界の交代劇が目の前で静かに行われます。

八日は「灌仏会(かんぶつぎ)」。お釈迦様の誕生を祝う仏教行事で、「花まつり」とも呼ばれます。花で飾られた花御堂に安置された誕生仏に甘茶をそそぐこの風習は、春の命の喜びを象徴する行事です。かつては甘茶で墨をすり、千早振る卯月八日は吉日よ、神下げ虫を成敗ぞする」と書いた紙を逆さまに貼って虫除けにする風習もありました。人々の暮らしの知恵と、家族の健康を願う祈りが重なり合う優しい春の一日です。

中旬を過ぎれば、夜空に「春の大曲線」が描かれます。北斗七星の柄の部分から、うしかい座の一等星アークトゥルス、そしておとめ座のスピカへと続く壮大な光の帯。青白く清林に輝くスピカは、日本では「真珠星」とも呼ばれ、春の夜の静寂を飾ります。

(裏へ続きます)

『神秘の健康力』
定期購入 30粒 2,700円(税込)~
商品の注文・変更をご希望の場合は、下記にお電話ください。
☎0120-63-2222
※おかけ間違いにご注意ください。
【営業時間】
9:00~18:00 (12/31~1/2は休日)



二十日から「穀雨(こくう)」。田畑を潤し、穀物の生長を助ける雨が降る季節です。しっとり濡れた大地からは、若草の香りが立ち上り、咲き競う花々を見つめると、イギリスの詩人、ウィリアム・ワズワースの『水仙』の一節が思い出されます。

「谷や丘の上高く浮かび流れる雲のように私はただ一人さまよった。出し抜けに私の目に飛び込んできたのは黄金色に輝く水仙の群れ。湖のほとり、木々の木陰でそよ風に吹かれ、ひらひらと舞い踊っていた。」

柔らかな陽光を浴び風にそよぐ花々の姿は、見る者の心に静かな生命の喜びを灯してくれます。サミュエル・ウルマンが、その名詩『青春』の中で「青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ」と説いたように、こうした自然の美しさに心を動かす感性こそが、私たちをいつまでも若々しく保ってくれるのかもしれない。

桜の花が散ったあとも、春の光は私たちの足元を照らし続けています。自然の息づかいに耳を澄ませ、ゆったりとした呼吸で生命の息吹を取り込みましょう。

春は寒暖差や環境の変化で心身が疲れやすい時期です。羽織るもので冷えを防ぎ、日光浴や入浴で緊張をほぐしましょう。山菜のほろ苦さも体調を整える助けとなります。皆様の毎日が、四月の空のように清らかで、希望に満ちたものでありますように。

健康対策には『神秘の健康力』。商品のご注文やご変更などございましたら、いつでも(0120-631222)までご連絡ください。

皆様のご健康をお祈り申しあげます。

金氏高麗人参株式会社

おもてなし係 お手紙担当 久郷 直子

